

## 254 日本文字-かな文字・漢字の読み取り負荷時の局所脳活動の変化について

上村和夫、藤田英明、Ian Sam、菅野 巖、三浦修一、村上松太郎、穴戸文男、犬上 篤（秋田脳研放射線科）

<sup>15</sup>O 標識水静注法とsubtraction法を用いて、かな文字と漢字読み取り負荷時の脳局所活動を調べた。現在、対象は成人4例で、PET装置前に置いたCRT上に表示した文字を読みとらせる。対照は視線固定用のパターン表示で、対照-かな-漢字-対照-かな-漢字-対照の順序で測定した。

結果：かな文字と漢字とでは若干異なった部位の賦活が起こるようである。即ち、かな文字では角回が主に賦活されるのに対し、漢字では側頭・後頭葉境界部に賦活がみられ、さらに小脳の賦活も漢字でより著明であった。文字読み取りによる脳の賦活部位の検討は、脳梗塞などでみられる失読との関連で重要である。